児童達が生きいきと

主婦会主催 林間学校大にぎわい

三池主婦会は組合とともに、今年も組合員児童の夏季生活指導（労働者の子供として、仲間を大切に、のびのびと明るく生きることを願いつつ、新労組の家庭にも呼びかけて……）を考え、第四回林間学校を取り組みました。

期日は、去る十日～十一日の一泊二日で、場所の設定については主婦会員や児童の意見をアンケートで集約した上で、きめました。その結果、荒尾市立体育館を活用することにしたのです。

参加人員は百三名。主婦会員や組合員を加えますと、総勢百三十七名でした。

まわりには大小のプールあり、夜間球技場ありで、児童の体育向上にはもってこいの場所でした。

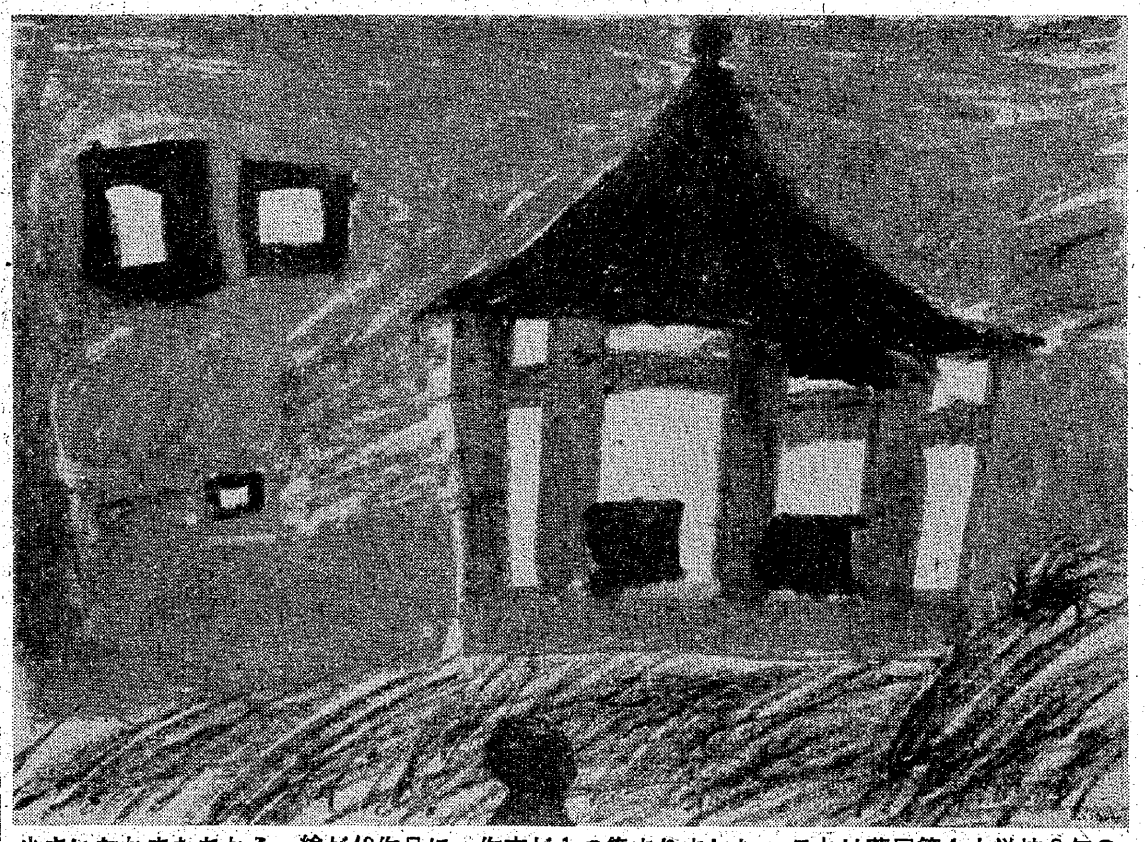
日程は、第一日目の十一時までに班の構成を終り、林間学校の開校式にうつりました。そのあと持参の中食をすませ、午後はせみとりやスケッチ、水泳、スポーツなど班単位で行ない、夕方食堂から運ばれたカレーの夕食に舌つづみ。夜は、キャンプファイヤー。

第二日目は、親子レクリエーション、四つのパートに分かれた団体競技に花を咲かせ、楽しい自由時間のあと全員で宝さがし、大にぎわいでした。

賞品はノートやハンカチ、コープ製品などでした。

ともあれ、児童の、生き生きとした姿が印象的でした。

（この項は、主婦会長・島文枝記）



小さいなかまたちから、絵が48作品に、作文が1つ集まりました。これは荒尾第1小学校3年の、かまちひでと君の絵です。よくまじめに描いたところが、なによりもよかつたと思われました。

作文

キャンプ

白川小学校二年三組　かまちめぐみ

きょうは、あらおたいいくかんにキャンプにきました。

ごごの一時から五時まで、じゆうじかんでした。

わたしはプールにいきました。

それから、ゆうごはんがきました。ゆうごはんは、カレーとサラダでした。

ゆうごはんがおわったら、おかあさんたちはよごれものを、たいいくかんのよこのすいどうであらいました。

たいいくかんの中にある、シャワーにはいりました。そしてバスタオルをしいて、ねました。

そしたら午後四時十分ごろ、じしんがおきました。

でも、たのしい一日でした。

（写真は西瓜がおいしい）

安見日記

顔

主婦会宮浦支部　高橋保子

先日、ある会合で顔の事が話題になりました。誰でも若い間は親からもらったままの顔だけど、中年を過ぎるとそろそろ自分の顔を持つようになるそうな。つまり前半は生れつきの顔で、後半は内面的なものがウエイトを占める、という事らしいのです。私は、この話を耳にして救われた気がしました。

それは娘が小学生だった、ある日の事でした。まだあどけなさの残る顔に一生懸命の思いをこめながら、「うちのお母さんが、もう少し美人だとよかったのに」、となげいた事がありました。授業参観のとき目にとめた美しい母親を持つ友人を、幼な心によほどうらやましく思ったのでしょう。ほろにがい思い出と共に、あの時の悲しげな娘の顔が今も私の胸深く刻まれたままです。

でもこの話しを聞いた瞬間私にはちょっぴり希望がわいてきました。グチやあきらめばかりが多い中で、何となく過ごす生活に疲れた母親でなく、何かを目ざして精一杯生きている……そんな母親になろう。もう決して、子どもに悲しい思いをさせる事のないような、内からにじみ出る何かを持った魅力のある母親になりたい。私が心ひそかにそう願うようになったのは、その時からのことです。

★九月の暦

1日　防災の日。関東大震災記念日。この日、二百十日。
8日　十五夜。
11日　二百十日。
13日　世界の法の日。
15日　敬老の日。
16日　九・二八坑内火災裁判公判開廷。（午後一時から福岡地裁で）
17日　三池大災害裁判公判開廷。（午前十時から福岡地裁で）
20日　彼岸の入り。動物愛護週間がスタート。
23日　秋分の日。
24日　結核予防週間スタート。
26日　彼岸の明け。
28日　三川鉱坑内火災（労働者七人死、CC患者再度大量に出る）記念日。

×

大災害（まだ十三人の労働者の遺体が、水没した幌内炭鉱の坑底に取り残されたまま）の発生から危機を招いた北海道炭鉱は、その犠牲を働く労働者に転嫁し、合理化を強行することによってその再建をめざそうとしている。

炭鉱はあくまで全炭鉱労働者の団結と統一の力で、石炭政策の変更をもとめながら再建闘争をおしすすめている。そのたたかいが、どうもりあがるか。

なお九月といえば、衣がえの時期。ひと夏着た純白の服は、しまう前の洗たくが肝心。石けんを使うのは、黄ばみの原因になる。お湯で四回ほどすすぐこと。

ほすのは陰ぼしを。

学校は三学期にはいる。児童の健康をよく点検し、はげまして学校に出そう。

二つの母親大会からの報告

守らねばならぬ平和　変えよう、政治の流れ

こんど、大牟田市と福岡県の二つの母親大会が開かれ、母親たちはいよいよ政治の流れを変えるために母親運動を積みあげてゆくことを決意しました。ここに二つの報告をご紹介します。

福岡大会記

二千人近くの県下のお母さん達が集まり、第十八回福岡県母親大会が八月一日福岡県立の某高校で行なわれました。

全体会議が始まり、来賓挨拶の中で、八月二十九日の福岡市長選の革新統一候補、福岡県評事務局長の岩崎隆次郎氏の挨拶があり、「大会社優先・自民党直結の官僚市政を打ち倒すためにがんばります」、との決意表明に会場割れんばかりの力強い拍手が、何回となく起こりました。

つづいて、参議院議員＝田中寿美子先生の、「これからの私たちの課題」、というテーマでの記念講演がありました。

多くの問題の山積している中でロッキード汚職疑獄事件が起き、数十億円にのぼる買収資金が、右翼・商社の手を通じて政、財、官界に流され、彼らはハワイや南朝鮮で私腹をこやしていることを聞き、今後私たちはどうすればよいかということでは、秋に行なわれる衆議院議員選挙、来年の参議院議員選挙を勝ちとり、身近かな問題として、諸物価値上げ、労働災害、教育の問題など、職場や地域のお母さんと手を取りあって行かねばならぬ、と思いました。

十八グループにわかれて分科会が行なわれましたが、私は「国際婦人年と私たち」（助言者＝田中寿美子先生）の分科会に入りました。

一、国際婦人年がなぜもうけられたか。

一、これからの運動がめざしているものは何か。

一、その目的を実現させるために私たちは何をしたらよいのか。

十七分科会は朝鮮の方の訴えにもとづき、南北朝鮮の分断に反対し、朝鮮の女性との連帯を深めるために交流会を開くことをきめ、大会決議の中に含めてもらうよう決議いたしました。

一日も早く南北朝鮮の統一が実現することを祈ってやみません。

この項主婦会三川支部＝山本恵美子さん・記。

大牟田大会記

八月八日大牟田市労働会館と笹林小学校で、第十七回大牟田市母親大会が開かれました。

母親大会の歴史は、あの「安保と三池の闘い」（一九六〇年）の中で、平和への不安と民主教育の危機感が深まるときのこと、大牟田の母親たちは「生命を生み出す母親は、生命を育て、守ることをのぞみます」――のスローガンを高々と掲げ、第一回母親大会を開いたのでした。

回を重ねること十七回、母親たちは平和への熱望と、子供の未来の幸せを希って、勉強会もかね、身近かな問題や悩みを話し合いながら、政治の流れを変えてゆくために小さな結集をはかってゆきました。

さて、今年はロッキード汚職疑獄事件や、佐世保市の〝むつ修理港誘致〟などの動きが強まる中で母親たちは、その運動を強めるために立ちあがりました。

大牟田市母親大会は、それこそ満場あふれんばかりの盛況で、熱気加わる中にも拘わらず笑いあり涙あり、怒りあり。原爆記録映画「時計は生きていた」や、「放課後の子供たち」という映画を鑑賞したあと、「教育問題」「地方自治と暮らし」「婦人の権利の問題」などについて話し合いました。有意義な大会だった、と思っております。

なおこの母親大会の申し合わせ事項に添って、総選挙勝利のためのたたかい、教育や平和の問題、保育所や医療などをめぐる問題などの解決を目指し、運動を積み重ねてゆきましょう。政治の流れを変えなければなりません。

×

この項主婦会長＝島文枝・記。

×

本紙に、夏休み中に書けた作文や描いた絵などを寄せてください。幼い子どもたちへ。